

講義コード	1530640001
講義名称	広報の社会学 01<春>
科目英文名	Public Relations Advertising and Media Communication
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	COMM1400
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
有國 明弘

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	<p>広告とは商品やサービスなどを広く告知し購買を促す活動であり、広報とは企業価値をあげ、利害関係者＝ステークホルダーとの良好な関係構築を目的とする活動を指します。デジタルテクノロジーが進化し、企業の社会的責任や不祥事対応など危機管理が大きな課題となるなか、広報の重要性は高まりをみせています。本講義では、メディアやコミュニケーション研究の知見を踏まえながら、広告および広報に関する基礎理論や機能、役割について考察していきます。日本における広告と広報の理論・文化・発展に関する知識を幅広く習得し、私たちの考え方にどのような影響を及ぼしているのか理解を深めてもらうことがこの講義の目的です。映像資料を活用しつつ、講義形式で行う。毎回コメントペーパーを配布（M-PortやWebClassの各機能等を活用）し、皆さんと対話的な学びの機会とする。課題の内容については、授業ごとに指示する。また、講義の参考書を指定するので、積極的に活用してほしい。</p>
学習（到達）目標	<p>本講義では次のような知識や能力を受講生のみなさんが身につけることを目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広告や広報に関する基礎的概念や理論を理解する。</li> <li>・ 広告や広報が果たす役割および機能について考え、私たちの生活に及ぼす影響について知る。</li> <li>・ 広告や広報に関するメディア・リテラシーを身につける。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	広告の定義・分類・機能
第3回	消費社会と広告
第4回	広告と卓越化①（ファッションにおける卓越化）
第5回	広告と卓越化②（ブランドと記号論）
第6回	マイノリティ表象と広告
第7回	インターネットと広告①（ネット広告とは）
第8回	インターネットと広告②（SNSと広告）
第9回	オーディエンスとは誰か？/広告と社会学
第10回	ブランディング
第11回	パブリック・リレーションズ（広報）/コーポレート・コミュニケーション①（映画と広報）
第12回	パブリック・リレーションズ（広報）/コーポレート・コミュニケーション②（観光と広報）
第13回	メディア・リレーションズ/企業の社会的責任
第14回	マーケティングPR
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業課題を100%として成績を評価します。
---------------	--------------------------

参考文献	ケイン樹里安・上原健太郎『ふれる社会学』北樹出版、2019年 岸志津江他著『現代広告論（第3版）』有斐閣、2017年 水野由多加他編『広告コミュニケーション研究ハンドブック』有斐閣、2015年 伊吹勇亮他著『広報・PR論』有斐閣、2014年
事前および事後学習の指示	参考文献などを読み予習しておくこと。配布した資料を用いて復習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	14D3610000
講義名称	金融論Ⅰ <春>
科目英文名	Financial TheoryⅠ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	FINC2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
星野 聡志

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	<p>※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。</p> <p>その他</p> <p>なし</p>
---------------	--

講義・演習概要	金融論Ⅰでは、ミクロ的観点から金融について学習していきます。具体的に取り扱う内容としては、金融機関の種類、業務内容や金融商品の特徴などを中心に説明を行います。
学習（到達）目標	金融機関の種類や業務内容、金融商品の特徴など、社会に出てからも利用できる金融に関連する基礎的な知識を身に付けることを目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（講義計画、成績評価などの説明）・金融基礎知識（1）：貨幣
第2回	金融基礎知識（2）：様々な金利と経済への影響
第3回	金融基礎知識（3）：イールドカーブ
第4回	金融基礎知識（4）：金融政策（目的・手段・波及経路）
第5回	金融の仕組みと金融仲介機関の役割
第6回	様々な金融機関（1）：銀行
第7回	様々な金融機関（2）：共同組織金融機関、証券会社など
第8回	様々な金融商品
第9回	中間試験（予定）、デリバティブ入門
第10回	ファイナンスの基礎（1）：リスク
第11回	ファイナンスの基礎（2）：平均・分散アプローチ
第12回	国際金融入門（1）：為替レートと経済への影響
第13回	国際金融入門（2）：為替レートの決まり方：短期
第14回	国際金融入門（3）：為替レートの決まり方：長期
第15回	金融論Ⅰまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
----	-----

レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	中間試験：50%（持ち込みなしの筆記試験） 期末課題：50% コメント：中間試験50%と期末課題50%で評価します。 出席については、全講義回のうち3分の2以上の出席を求めます。6回目を欠席した時点で成績評価しません。ただし、公欠については配慮します。
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	指定しません					

参考文献	内田浩史 (2016) 『金融 Money, Finance, and Financial System』 有斐閣 幸田博人・川北英隆 (編著) (2021) 『金融リテラシー入門 [応用編]』 一般社団法人 金融財政事情研究会 小林照義 (2020) 『ベーシック+金融政策 (第2版)』 中央経済社 細野薫・石原秀彦・渡部和孝 (2019) 『グラフィック 金融論 第2版』 新世社 家森信善 (2022) 『ベーシック+金融論 (第3版)』 中央経済社 その他、適宜お伝えします。
事前および事後学習の指示	講義中に具体的なことについては指示しますが、配布資料の内容を中心に理解を深めるための予習・復習をするようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	金融政策、金融システム、ミクロ経済学、マクロ経済学

講義コード	14D5910000
講義名称	国際経済論Ⅰ <春>
科目英文名	International EconomicsⅠ
開講責任部署	経済学部 経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2650
単位数	2.0
時間割	春学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	春学期

## 担当教員

氏名
浅海 達也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	この講義では国際経済論を国際貿易の観点から学ぶ。グローバル化が進むにつれて、モノ・ヒトの国境を越えた流れが勢いを増している。このような国際貿易は我々の生活とどのように結びついているのだろうか。この問いに対して、経済全体で考える「貿易の利益」と経済主体を分けて考える「所得分配」の二つの側面から明らかにする。さらに国際貿易は貿易政策の下で行われるため、輸入関税や輸出補助金といった政策の効果も取り扱う。講義はスライド資料と実際のデータを基に進める。前回の講義と関連がある場合には冒頭で前回の復習を取り入れる。受講者は結果の暗記ではなく、論理的な説明を通じて国際貿易の考え方を身に付ける。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて、 (1) 貿易の利益を経済全体の側面から理解する。 (2) 貿易による所得分配を個々の経済主体の側面から理解する。 (3) 貿易政策による貿易の利益と所得分配への影響を自分で考えることができる。 (4) 貿易に関するデータとそれを説明する理論の対応関係を把握する。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス 国際経済論における国際貿易 国際貿易の現実
第2回	労働生産性と比較優位：リカード・モデル (1) 【貿易の利益】
第3回	労働生産性と比較優位：リカード・モデル (2) 【相対価格の決定】
第4回	特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (1) 【短期的な所得分配】
第5回	特殊要素と所得分配：特殊要素モデル (2) 【相対価格の決定】
第6回	移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (1) 【長期的な所得分配】
第7回	移動可能要素と所得分配：ヘクシャー＝オリーン・モデル (2) 【相対価格の決定】
第8回	相対価格と交易条件：一般均衡モデル (1) 【貿易の利益】
第9回	相対価格と交易条件：一般均衡モデル (2) 【経済成長】
第10回	相対価格と交易条件：一般均衡モデル (3) 【貿易政策】
第11回	余剰と交易条件：部分均衡モデル (1) 【貿易の利益と所得分配】
第12回	余剰と交易条件：部分均衡モデル (2) 【輸入関税】
第13回	余剰と交易条件：部分均衡モデル (3) 【輸出補助金】
第14回	余剰と交易条件：部分均衡モデル (4) 【国際交渉】
第15回	国際経済論Ⅰのまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
レポート	75%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験が25%、各回（第2～14回）の授業内容に関するレポートが75%。 レポートでは各回の授業後に、講義を受けて学んだことを自分の言葉で説明する。 試験では第15回の授業後に、講義内容を理解しているかどうかを確認する。 なお公認欠席を除く欠席が4回以上の場合、成績評価をしないので注意すること。 （遅刻についても、その程度に応じて欠席回数にカウントされる。）
---------------	---

参考文献	P. R. クルーグマン 著 / M. オブストフェルド 著 / M. J. メリッツ 著 / 山形浩生 訳 / 守岡 桜 訳 (2017) 『クルーグマン国際経済学 理論と政策〈上〉貿易編』丸善出版。
事前および事後学習の指示	事前学習では国際貿易に関するニュースや記事を読み、国際貿易への関心を深める。 事後学習では講義内容を復習するとともに、その内容がどのニュースや記事に対応しているのか考える。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	国際貿易、貿易の利益、所得分配、貿易政策